

道の駅絵本の里・けんぶち／道の駅もち米の里☆なよろ 視察ツアー

【実施報告】

1. 実施概要

1. 目的

幌延町における拠点や道の駅の具体的な在り方を考えるために、できるだけ幌延町の条件と似た道の駅を視察し、施設の状況や運営方法などについて視察する。

2. 日程

2019年2月26日(火)
8:45 役場前集合 / 17:30 役場前解散

4. 行程

時間	分類	
8:45	集合	幌延町役場前
11:30 ~ 12:15	昼食	絵本の里けんぶち レストランムーニャ
12:15 ~ 13:45	視察①	道の駅絵本の里けんぶち
14:15 ~ 15:00	視察②	道の駅もち米の里・なよろ
17:30	解散	幌延町役場前

3. 参加者

所属	氏名	所属
創生会議	一関 捷治	創生会議 委員長 幌延市街地区連合町内会 会長
	西澤 裕之	幌延町観光協会 副会長
	藤井 サキ子	幌延町観光協会
	高橋 秀明	幌延町調理飲食店組合 組合長
幌延町	角山 隆一	産業振興課 主幹
	伊山 英貴	産業振興課 係長
	足達 純也	産業振興課 主査
	久保田 明祥	産業振興課 主任
	若月 秀晃	産業振興課 主事



2. 視察の様子

●道の駅絵本の里けんぶち



販売している特産品等を説明頂いた。



直売の方法について説明頂いた。



道の駅の運営等について説明頂いた。

●道の駅もち米の里・なよろ



道の駅の運営等について説明頂いた。



道の駅の運営等について説明頂いた。



販売している特産品等を説明頂いた。

3. 道の駅の視察概要(説明内容)

	道の駅絵本の里けんぶち	道の駅もち米の里・なよろ
入込客数について	利用者数の把握として、農産物直売所及び正面入り口、トイレの入り口にカウンターが設置されており、来訪者の人数をカウントしている。平成29年度で49万人の方が来館されている。	平成29年度で47万人。入込数はレジ打ち数をカウントしている。実際に訪れている方は、65～70万人くらい。観光バスは減少傾向にあり、多い時は1,000台程度の利用があったが、今は500台くらい。
売り上げについて	平成29年度で1億5千万程度。道の駅単体では、黒字である。利益率は、一般的な箱菓は原価が安く、利益率が高い。また、パンも人件費はかかるが、原価率を抑え、利益を上げている。	売り上げは昨年で3億2千万程度で、年々減少している。自社で開発したもち米を使った甘酒やおかき、餅入りどらやき等、多数の商品を販売している。また、道北の商品を広くラインナップしている。
従業員について	正社員として、店長及びベーカリーの責任者が2名、準社員として調理師免許を持っている方が2名、パート11名となっている。	従業員数は年々減少し、現在は売店6名、レストラン4名、事務・営業で3名の全13名。ハローワークで募集をかけても、応募が無い。
野菜の直売について	道の駅直売所運営協議会に加盟した方しか出店できない。個人も含め41団体が出店。POSシステムで売り上げを管理しており、メールにて11時・14時・17時に生産者へ売り上げ状況を報告している。売り上げに対しての15%の手数料を徴収している。	農産物直売会が運営する農産物直売所は、右肩上がりで売り上げが伸びており、昨年度で、5000万円を超えている。近隣の道の駅では、値段が高いと評価されているが、それにあわせて、品質も向上している。
指定管理について	指定管理料については、ある程度町から頂いている。内容としては、裏の公園管理、トイレの公共的負担経費となる。	
キャンピングカーについて	キャンピングカーを含め車中泊の車は多い。第二駐車場があり、そこに一か月ほど停車している方がいる。ゴミを散らかす等の問題は少ない。	キャンピングカーは、増加傾向にあり、夏場の多い時期には、20台程度が停車している。マナーが悪い方も多い。最近では、RVパークとして、電源・水が完備されているキャンピングカー用駐車場を用意している道の駅等もあるようだ。
道の駅を考える際のアドバイスについて	大きな駐車場とコンセプトが重要。道の駅と一緒に既存施設の運営ができれば、経費も削減でき、さらに利用者の分母が増え、売り上げも増える。 道の駅の利用者は7割程度が夏場利用。夏場にできるだけ稼いで、冬の収入は見込めないことを前提に考えた方が良い。	冬期の吹雪時は、1日の売り上げが10万円程度と開店休業状態の日もある。お盆の繁忙期は、一日で300万円を超える日もある。
道の駅を設置する際の注意点について	冷蔵庫や冷凍庫も含めバックヤードは、大きめに確保した方が良い。室内の暑い・寒い、クレームの対象になるため、冷暖房対策は重要。また、パンを焼くオーブンやフライヤーなども電気を使うため、電気容量は多めに考えた方が良い。	
その他	閑散期の対策などは単一の道の駅では難しいことも多く、近隣の道の駅連携を考えている。	道の駅連携を進めており、情報交換やお互いの特産品販売、イベント連携、スタンプラリーについて検討していく予定。